

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了承いただけない方は、下記の【お問い合わせ先】までご連絡ください。

**【研究名】** 乳がん化学療法誘発悪心・嘔吐に対するオランザピンの臨床的有効性と安全性評価

**【研究機関】** 愛媛大学医学部肝胆膵・乳腺外科学

**【研究責任者】** 亀井 義明(愛媛大学医学部肝胆膵・乳腺外科学 講師)

### 【目的】

抗がん剤治療では、吐き気や嘔吐の副作用が出ることが問題になります。その対応策として予防的に吐き気止めが使われます。近年、米国で有効性と安全性が報告されたオランザピンが日本においても吐き気止めとして使用可能となりました。

本研究では、愛媛大学医学部附属病院で乳がんアンスラサイクリン系抗がん剤治療(FEC療法、AC療法、EC療法)が行われた患者さんを対象に、オランザピンによる吐き気の予防効果と副作用を調査して、医療現場への還元を目的としています。

### 【研究意義】

米国人を対象としたオランザピンの制吐効果の有効性と安全性は報告されていますが、日本人のオランザピンの報告は少なく、乳がんアンスラサイクリン系抗がん剤の有効性と安全性はわかっていません。オランザピンの効果と安全性を調べることで、患者さんへ還元できることが期待されます。

### 【研究方法】

対象患者:2011年5月～2018年3月に愛媛大学医学部附属病院で乳がんアンスラサイクリンレジメンを少なくとも1コース以上おこなった患者さん

調査方法:電子カルテ(IBM)を用いた後方視的調査

調査項目:年齢、性別、体表面積、body mass index、stage、喫煙歴の有無、  
飲酒習慣歴の有無、PS、出産歴の有無、糖尿病合併の有無、レジメン名、  
アンスラサイクリンレジメンの投与量、制吐療法、併用薬、好中球数、  
腎・肝機能検査値(eGFR、AST、ALT)、1コース目治療開始から5日間の  
期間における悪心、嘔吐、救済治療の有無、救済治療の薬剤名、  
吐き気止めの副作用

**【研究期間】**

2018年5月～2019年3月を予定。

**【個人情報の取り扱い】**

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

**【お問い合わせ先】**

愛媛大学医学部肝胆膵・乳腺外科学 亀井 義明

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号 089-960-5327

**【情報管理責任者】** 肝胆膵・乳腺外科学 医員 村上 朱里